

7月10日(月)～8月8日(火) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 伊藤 なつみ



伊藤 なつみ

東京出身。雑誌編集者を経てフリーランスに。これまでデヴィッド・ボウイやマドンナ、レディオヘッドなど、海外・国内を問わず多数のミュージシャンに取材。音楽ジャーナリスト/編集者として雑誌や書籍の仕事を中心に、CD解説原稿、ラジオ番組の出演・構成、イベントの企画・プロデュース、ファッション・ショーの音楽プロデュースなど多岐にわたって活動している。音楽、映画、読書、アートといったカルチャーをこよなく愛し、趣味は旅と料理。

今回のセレクトCD

- 

1. Marisa Monte / Mais (EMI / 796081 2)
夏になると必ず聴きたくなる1枚。ブラジルを代表するシンガーのマリーザ・モンチが、ニューヨークとリオで録音した1991年発表のアルバム。アート・リンゼイのプロデュースで、坂本龍一、ジョン・ゾーン、ナナ・ヴァスコンセロスといった多彩なミュージシャンが参加し、ブラジル音楽に都会的な洗練されたサウンドが加味され、とても心地よい。情熱的な歌詞も魅力。
- 

2. Alana Davis / Blame It On Me (Elektra / AMCY-2455)
このアルバムが流れるだけで心がリフレッシュする、お気に入りの1枚。アラナ・デイヴィスはニューヨークのグリニッチ・ヴィレッジ出身のシンガー・ソングライターで、父親はジャズ・ピアニストの故ウォルター・デイヴィス・Jr. 1997年発表のデビュー・アルバムで、フォークやオルタナティヴ・ロック、ジャズをミックスした、センスの良い音楽と歌声で魅了。
- 

3. Sade / Love Deluxe (Epic ESCA / 5673)
夏のヴァカンス、特に島に行く時には欠かせない1992年発表の名盤。異国情緒たっぶりのシャーデー・アドウの神秘的な歌声は、浸っているだけで現実逃避できそう。英国セントラル・セントマーティンズ美術大学でファッションを勉強したという彼女は、佇まいや気品にも溢れ、ジャズをコンテンポラリーなサウンドに引き寄せた楽曲そのものも高く評価された。
- 

4. Haim / Something To Tell You (Polydor / UICP1179)
最新作からは、この7月に発売したばかりのハイムの2作目を。アメリカ西海岸を象徴するような3姉妹のハーモニーを活かした大らかな音楽で、フリートウッド・マックのような70年代の音楽からヒップホップまで愛聴するという趣味の広さを、ポップにまとめている。リズムカルな言葉の乗せ方、ビート感など独創的で、恋愛など赤裸々に歌った歌詞も共感を呼びそう。
- 

5. Ametsub / All is Silence (Nothings66 / N66CD003)
Ametsubは日本のエレクトロニカのシーンを語るのに欠かせないミュージシャン。坂本龍一が早くから注目したのをはじめ、ヨーロッパの大型フェスに出演するなど世界的に活躍。Clammhonのリミックスを手がけ、真鍋大度との共演もある。これは2012年の作品で、クラシックやジャズを素養にオーガニックな音色も織り込んだアート性の強いサウンドスケープは、細胞を活性化してくれるような優しい刺激に満ちている。